

閉 会 の 挨拶

高知女子大学看護学会

運営委員長 山崎美恵子

第21回看護学会を学会員意外の方にも公開して開催することができ、そして皆様のご協力を得まして無事終了することができました。運営委員一同厚くお礼申し上げます。

本日の参加者は562名という人数でございました。施設の方々にご案内いたしましたところ、締切日をはるかに残して2週間で、この参加者数になりました。当会館の補助椅子を出していただき、対応させていただきました。締切った後からも、参加申し込みの方にお断わりするのに本当に大変な時期がございまして、毎日「なんとか参加させてほしい。」と電話がかかってきまして「本当にすみません。満席になりましたから。」とお断りした今回の学会でございました。

会長さんのご挨拶でもありましたけれども21年前にこの学会が発足し、大学の教室で学会を開催したことを思い出します。その年に卒業した方々は21年たっていますから43歳ということになります。1回1回と歴史を積み重ねてきた学会も回を重ねる度に内容が本当に充実してきたということを南先生・岡谷先生をお迎えし、本日の学会を終えるにあたって、つくづくそのような感じをもつことができました。

来年は研究発表がプログラムに組み込まれる年でございますので、どうぞふるって応募していただきたいと思っています。

この学会は卒業生の研究発表の場ということもありますし、県立大学の役割として地域の看護者の方々へ新しい情報だとか学習の機会を提供できる場としても、この学会を発展させていきたいと思っています。どうぞ卒業生の方々のご協力をよろしく願いいたしまして、本日の学会を閉じさせていただきたいと思います。